

特集

地域で広がる子どもたちの
学び・遊びの支援の輪

子育てサークルやオープンスペースなど乳幼児とその保護者には、様々な制度・サービスが実施されています。一方、小学校入学後は教育の場が中心となり、子どもの育ちの場として設けられている児童館や留守家庭子ども会は、利用条件や利用可能な時間帯などの決まりごとがあり、充分とは言えない面もあります。こうしたなかであって、学びや遊びの場づくり等、子どもたちの育ちを地域の方たちが応援する取り組みが広がっています。今号は、区内のこうした取り組みのいくつかをご紹介します。



高陽・落合東地区

大学生と地域が生みだす学びの場

落合東地区社会福祉協議会(社協)は、落合東福祉センターで毎週土曜日(13:00~15:00)に無料学習塾「金平学習塾」を開催しています。

3月9日(土)から始まったこの取り組みは、広島修道大学の学生ボランティアグループ「Eフロンティア」のメンバーや同大学の3年生が講師を務め、小学生4年生から6年生までの児童に国語・算数・理科・社会の主要4科目を中心に勉強していきます。また、地域の方々と料理や工作等で交流する機会も設けます。

初回(3月9日)は、児童13名が参加。食虫植物をテーマに講義を行いました。第1回目とあって、最初は講師を務める大学生も子どもたちも緊張していたのですが、授業が進むにつれ次第に緊張もほぐれ、目を輝かせながら食虫植物の授業に聞き入っていました。

Eフロンティアの代表 加藤友輔さんは、「学ぶことに興味をもってもらえるよう、好きになってもらえるよう、学校や塾とは一味違った授業を行いたい」と抱負を語っていました。

Eフロンティアは、修道大学人文学部教育学専攻を中心とした1年生が昨年6月に結成。「塾に通っていないが、学びたい子どもたちを支援したい」と、同年秋から活動の場を探していました。子どもたちの「朝ごはん会」の取り組みを通じて、子どもたちへの学びの取り組みを検討していた落合東地区社協と思いが一致しました。

同地区社協会長 立石義敬さんは「子どもたちが少しでも勉強に興味を持って、自分でわかったという気持ちになってもらえるようなれば。金平学習塾を学校に通うのが一層楽しみになるような『楽しく学びあえる場』としていきたい」と語っておられました。

※「朝ごはん会」の取り組みについては、本紙86号で紹介しています。バックナンバー有り。本会まで。



目次~主な内容~	
□ 特集 地域で広がる子どもたちの学び・遊びの支援の輪	
落合東、亀崎、久地、小河内地区……………	P1~P2
□ 進んでいます「地域のあんしんプランづくり」……………	P3
□ わたしのまちのきりりびとさん……………	P4
□ いきいきボランティア……………	P5
□ 弁護士無料法律相談のお知らせ ほか……………	P6



高陽 亀崎地域

『ゆうやけルーム』は 子どもたちの居場所

～放課後の他世代交流～

平成25年1月7日(月)高陽ニュータウンのタウンセンタービル地下1階(安佐北区亀崎一丁目2-4)に、子どもたちが学びあい集える場、お年寄りとの交流の場として、『ゆうやけルーム高陽』がオープンしました。団地内のお年寄りが放課後の子どもたちと過ごす取り組みとして注目されています。

高陽ニュータウンは昭和49年に分譲され、亀崎、倉掛、真亀、落合東の4地区からなり、平成24年12月末現在の人口は17,125人、65歳以上の割合は28.8%で8年前と比べると人口は減少し、65歳以上の割合は10%程度増加しています。

『ゆうやけルーム高陽』は、「高陽ニュータウンまちづくり市民会議」が運営。タウンセンタービル地下1階にある市民会議の事務所を平日の午後4時から午後7時まで開放し、市民会議のメンバーが1名から2名常駐。ニュータウン在住の小中学生が利用でき、子どもたちは読書や宿題をして過ごします。

また、同会場は平日の午前10時からだれでも気軽におしゃべりでき、立ち寄ることができます。手芸や洋裁などを行う日もあり、高齢者は得意分野を活かし、生きがいとなって活躍できる場にもなっています。

集まった人たちのなげない会話の中で、電球の交換など困っていることがあれば、お互いが助け合う取り組みも検討されています。市民会議の吉村代表は、「多くの子どもたちが立ち寄り、にぎやかで楽しいルームにしていきたい」と話されていました。

お問い合わせ

ゆうやけルーム高陽 平日午後4時から午後7時

(安佐北区亀崎一丁目2-4 タウンセンタービル地下1階)

子育て常設オープンスペース「すずらんひろば高陽」隣)

高陽ニュータウンまちづくり市民会議(吉村栄夫)

電話 090-2002-4017



安佐・久地地域

自然の中で子どもたちの 生きる力を育む！

「フリースクール木のねっこ」は、発達障害のある子どもや不登校の子どもなど、学校に行けないまたは行きたくない子どもたちや、自然が好きな子どもたちの自立して生きていく力を育む学びの場として、「木のねっこ」代表の横山さんたちが、自然豊かな久地地区宇賀の「久地北・太田川げんき村」の施設を利用させてもらい、平成24年8月から月1～2回(10:00～15:00)開催しています。



毎回10～20名程度が参加。午前中は山歩きや川遊び等といった自然体験、午後はアートの時間として子どもたちの希望に合わせたダンスや神楽の他に、げんき村や地域の方々と一緒に竹細工作りや昔遊びといった活動を行っています。

自分の役割を見つけ、自分の力を発揮できるようになり、心のゆとりも生まれ、少しずつ学校へ行ける日が増えている子どももいます。さらに、保護者も余裕をもって、子どもの成長を見つめられ、そっと手を差し出すことができるようになってきています。

「現在、NPO法人の取得を目指しており、今年の8月から本格的な活動開始を予定しています。今後は、げんき村の方達と一緒に、地域が元気になるような取り組みを行いたいと思っています。卒業した子どもたちがいつかここに戻ってきて、次の子どもたちの支えとなれるように、環境面も整えていきたいですね」と代表の横山さんが夢を語っておられました。

【フリースクール木のねっこ ホームページ】

<http://kinonekkoschool.web.fc2.com/>



安佐・小河内地区

大人が育む子どもの育ち

～小河内子どもクラブ～

安佐北区安佐町の北西に位置する小河内地区は、東は牛頭山、西は滝山に囲まれた地形に集落が点在し、過疎が進んでいる地域です。平成24年12月末現在 人口515人、世帯258戸、高齢化率50.7%。

小河内地区協では、青少年健全育成協議会と共同して『小河内子どもクラブ』を実施しています。「地域の子どもの地域皆で見守る」という目的で、平成18年度から始まったこの取り組みは、夏休み、春休みの長期休暇中、地域の大人たちが子どもたちの安全を図りながら、子どもたちは友達と楽しく学習したり、川遊びなどの特別活動などを行い、生き生きと過ごしています。

この取り組みに参加している増田正幸さん曰く、「子どもたちのお世話をしているという気持ちよりは、子どもたちとふれ合うことによって、自分の気持ちが若返り、生きがいややりがいになっています。一緒にスポーツをするときは、体力が持たずしんどい時もありますが」(笑)と話されていました。

「過疎がすすみ、この4月には小学校の児童数が7名になりますが、これまで以上に地域一丸となって地域の宝である子どもたちを応援していきたい」と、同地区社協迫田会長さんが語っておられました。



進んでいます 「地域のおんしんプランづくり」

誰もが「住み慣れたまち(地域)で安心・安全に暮らし続けたい」と願っています。その願いや思いを実現していくための計画(福祉のまちづくりプラン)づくりが地区社協において進んでいます。

現在、20地区で「福祉のまちづくりプラン」が作成または作成中です。今号は、平成24年度末に作成された5地区社協において計画されている取り組みを紹介します。

井原地区

井原地区は高齢化率が50%を越えている地域です。『話・輪・和 3つの「わ」で支え合うまち「いばら」』をスローガンに、新聞販売員や郵便配達員などと協力した高齢者・障害のある人への声かけなどの取り組みや、急病の時に支え合える体制づくりを集落ごとに進めていく予定です。

落合東地区

高陽ニュータウンのひとつの地区で公営住宅の多い地域です。地区社協の拠点の落合東福祉センターを使い、「縁がわ」のようにだれもが気軽に立ち寄って交流を図る取り組みや、「朝ごはん会」や「無料学習塾」など子の育ち支援の取り組みをスタートされています。

落合地区

昭和40年代に団地、商業地として造成された地域で、市中心部まで30分圏内にある旧高陽町では最も古い団地です。「コミュニケーションを大切にするまちづくり」など、あいさつ運動の展開や地区社協の拠点「やすらぎ」を活用し、だれもが交流できる場づくりの拡充を図られます。

亀山地区

約13000人と区内で最も人口が多く、市街地や団地、山間地域など複合的な地域です。団地や山間地域では高齢化が進み、病院や買い物に行くのに交通の便が悪いため、巡回バス等の取り組みが検討されています。また、子どもたちの遊び・学び塾の開設や遊休地などを活用した、世代を越えたつながりづくりを進められます。

日浦地区

日浦地区は、高齢化率が44%。4つの町内会がそれぞれ山で囲まれ、田畑の多い地域です。「一人住まいのため休耕田の草刈りをするのが大変」という声が多くあったため、有償の取り組みで実施することを検討されています。また、買い物に行くのが大変なため、移動販売車の活用や福祉施設と協働した買物ツアーの実施などを検討されています。



可部地区

孫と一緒に学び舎で ～空き教室サロン・スタート～

可部地区の「城表町内会ふれあいいきいきサロンせせらぎ」は、地元の可部中学校(可部7-2-1)の1階空き教室を使い、平成25年1月からサロンを開催しています。

サロンの取り組みは、13年前から実施していますが、城表町内会には集会所がないため、民生委員さんの自宅等を使っていました。しかし、開催場所の都合がつかなくて中止したことが度々あったため、定期的に開催できる場所を探していたところ、可部中学校長さんから快諾を得、安心して集う場所ができました。

「せせらぎ」は、毎月第1水曜日の午後1時から約2時間開催し、城表町内会の一人住まいの高齢者の方を中心とした10名から20名が参加。1ヶ月の間の出来ごとで人に伝えたい良

いことを参加者全員順ぐりに話した後、一緒にお茶を飲んだり頭の体操や歌を唱い楽しんでいます。

可部中学校は生徒数548名、徐々に減少傾向にあり、空き教室ができました。中学校の萩原校長は、「空き教室を使っていただくことで、これまで以上に地元の方と顔の見える関係づくりができることは学校にとってもありがたいことです。サロンの開催時間が、昼の休憩時間とかさなり、窓越しに「何だろう?」と興味を持つ生徒もいるようです」と話されています。

サロンに参加されている野路みちえさんは「自分は80代ですが、チャイムの音を聞くと、なつかしい気持ちになります。子どもたちから積極的なあいさつがあるので、ここに来ると元気になります。子どもたちの参加も大歓迎です」と、来月の開催を楽しみにされています。



花粉症対策を万全に!

～健康ひとくちまめ情報～

花粉症は、原因となる花粉を吸い込んだため起こるアレルギー症状をいいます。空気中を飛散している花粉が鼻から吸い込まれたり、目に付着して、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、そして目のかゆみなどの症状が起こります。ほかに、頭痛や咳、微熱、だるさといった症状に悩まされる方もいます。

春先に多いのがスギ花粉症ですが、症状が起こる時期は人によってさまざまで、花粉が飛び始めるとすぐに症状が出る人もいれば、花粉がたくさん飛ばないと症状が出てこない人もいます。その年の飛散する花粉数によって症状の強さも変わります。また、風邪の症状と区別が難しいことも。安佐北区はスギよりもヒノキが多い地域です。

今年の花粉量は所によっては例年の5倍あるとされています。その花粉症を防ぐためには、前もって花粉量を知っておくことや、できるだけ花粉を体内や家の中に入れないことが大切です。ここでは有効といわれている自分でできる方法をご紹介します。

- **マスク** 通常のマスクに湿ったガーゼを挟み込むだけでも効果があります。
- **メガネ** 通常のメガネでも、メガネをしていない時の目に入る花粉量は半分以下になります。視力に関係のないダテメガネでも有効です。
- **洋服** 髪の毛や衣服に花粉が付着しないように、表面が滑りやすい素材のコートや帽子の着用が効果的です。また、帰宅したら花粉をよくはらい落とすようにし、家の中に花粉を持ち込まないようにしましょう。
- **洗顔** 家に帰ったら、顔全体を洗って花粉を取るようになります。目や鼻を洗うと花粉症の症状が軽くなりますが、時にはかえって刺激となり症状が悪くなる場合もあります。

(参考資料:厚生労働省ホームページ、花粉症一般向けパンフレット)

「的確な花粉症の治療のために」

安佐北区の皆さまに

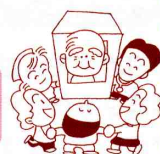
あったかな
目配り・気配りで
おんしんな暮らしを

最近みかけない、夜、あかりがない、配布物がたまっている……など

【ご近所の方が気がかりな時は、近くの町内会長、民生委員等にお知らせください。】

ご近所同士のつながりが薄れ、見守りあいや支えあいの力が弱まっています。こうしたなかで、日頃からのあったかな目配り・気配りと支えあいで、万一、何かあった時にも、「おんしん」と言い合えるような近隣関係づくりをすすめましょう。

安佐北区内の地区社会福祉協議会では、皆さまの思いや願いに基づいた「誰もがおんしんして暮らせるまちづくり」をすすめています。





私たちのまちで、キラッと輝くような
地域活動をされている方を、紹介しています。

今回は、
安佐町小河内の
迫田 勲さん
(74歳、NPO法人小河内プロジェクト
理事、小河内地区協会長)です。

少子高齢化と人口減少が急激にすすむ小河内地区のこの10年間余の取組みを、本紙85号(H23.12)で紹介しました。概ね、福祉のまちづくりプランの策定(H14)から地域共助型のNPO法人の設立(H23)まででした。迫田さんが、サラリーマンとしての都市生活ののち、帰郷され地域活動に取組まれた期間と符合します。この間の取組みを振り返っていただき、今後の展望などをお聞かせください。

小河内は、市の北西端にあり芸芸太田・北広島両町に接しています。市内138地区のなかでの一番がいくつかあるんです。(笑) それは、人口が少ない(515名)、子どもが少ない(小学生7名)、高齢化率が高い(50.7%)、人口減少率が高い(H11対H24、約30%減)ことです。いわゆる少子高齢化と言う時代の先端を行くトップランナー、典型的な過疎の農村地域です。一方、118万都市中心部まで1時間という近接地でもあるんです。何か変てこりんですよ。

田舎に帰って、当時はまだ高齢化率が30%台でしたが、毎年1%程度増加しあつという間に高齢者が過半となりました。当初からの、高齢者や子どもたちが安心して小河内で暮らせるような支え合いのまちづくりを柱に取組みをすすめていましたが、老いを深く寂しくなるばかりの地域の景色のなかで、地域みんなの元気が出るような取組みも併せて必要なのではないかという話しが多く出てくるようになったんです。

「限界集落」は「源快集楽」じゃねと笑い飛ばし合いながら、小河内のまちづくりをみんなですすめよう、そのために、地区協協とは別にNPO法人を作り、地域全体を元気にしようとなった訳です。平成23年4月にNPO法人を設立し、まる2年が経ちます。

この間、法人の主要な事業を、次の6つの柱に整理し取組んできました。それは、①農地・農業の保全、②都市住民との交流(農村体験ツーリズム等)、③雇用の創出と経済発展(地元の仕事づくり等)、④安全・安心なまちづくり、⑤歴史と伝統文化の維持・継承、⑥情報発信(小河内便り、HP等)です。

子どもクラブの取組み、ツーリズム等々による地域の活性化など多くの先進的な取組みを次々に展開してこられました。取組みを通して見えてきたことやこれからの抱負をお聞かせください。

そうですね、やはり小河内が色濃く残してきた農村文化や自然環境を宝として大切に、これからもまちづくりに

生かしていきたいですね。小河内の豊かな自然や農村文化等の情報を発信、広島市(都市住民)との交流を盛んにし、人、モノ、カネ、情報が循環する仕組みを作り、小河内の活性化に繋げたい、と考えています。まだ、わずかな期間の取組みで試行錯誤しています。「こりゃあ失敗じゃった」「上手くいかんのう」といった取組みもあります。

多くの方々が、小河内の取組みに関心を寄せ注目されています。みなさんにメッセージをお願いします。

今、小河内は次の取組みステージに向けて大きな節目を迎えています。初めから解っていたことではないのと言われそうですが、取上げて申し上げます。それは、「オールジャパン」ならぬ「オールオガウチ」、小河内のみんなが何らかの形で参画できるまちづくりが、今こそ更に求められているということです。全く、基本中の基本で恐縮ですが、参考にありますでしょうか。

そうですね、ありがとうございました。いつもながらの淡々とした取組み姿勢に、改めて敬意を表します。
ますます、ご活躍ください。

ことは「福祉」②

福祉事務所という言葉を最近身じかに目にしたり聞かなくなった人は、若い世代の人たちははともかくとして、中高年世代の方々には多いのではないのでしょうか。平成9年に、広島市は、福祉事務所と保健所の大半の機能を統合し、各区に厚生部(生活・保健福祉・健康長寿の三課)を設け、それまで長く掲げてきた福祉事務所の看板を降ろしました。今年で、16年が経過します。

この間、少子高齢化、家族の小規模化が一段と進みまた経済的困難者(家庭)の増加ともあいまって、社会的・公的福祉サービスの利用が拡大し一般化してきました。平成12年から始まった介護保険制度下での介護サービスの利用は、その典型といえましょう。社会的・公的福祉サービスが、一部の人たちの利用からより多くの人たちが利用するものへと変遷していくなかで、福祉という言葉も、「縁遠いもの」から「身近なもの」としての受け止め方が、私たちの社会に広がってきています。

先にご紹介した広島市の名称変更も、こうした時代の変遷を先取りした取組みでした。さて、戦後、はやくも昭和20年代に誕生した「社会福祉協議会」は、一貫してこの看板を掲げてきました。身近になりつつある「福祉」という言葉の入った看板を今後も掲げていくのか、それとも別の名称が良いのか、社協関係者の検討課題ともなっています。みなさまからのご意見をお寄せください。



シリーズ 魅力ある広報紙作り

その3 取材をしてみよう ネコの手アドバイス



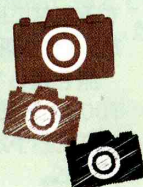
話題探しにも人の知恵を借りるといいと、前回お話ししました。それでも適当なネタがない場合もあるでしょう。

こうなれば覚悟を決め、自分で取材にチャレンジするしかありません。

そうはいっても何を取材すればいいのでしょうか。地区の話題の主に、直撃インタビューするのが、一つの方法です。

例えばアユ釣りや菊作りの名人など、広報発行の時期に合わせ臨機応変でいきましょう。「〇〇を続けて何年」など節目の年であると、読者にも理由が通じやすいでしょう。人生を長くやっていると、ドラマの一つ二つは必ずあるものです。

まず電話で相手の都合を聞いて、取材の約束をします。メモ帳、カメラ、テープレコーダー(今はボイスレコーダーが普通)、名刺(自分の役割が相手に分かるもの。〇〇広報担当といった腕章を作ってもいいでしょう)。こんなところが携帯必



需品です。担当者が複数なら、カメラと取材する人を分けます。可能ならビデオ撮影しておくで、雰囲気そのまま映像に残ります。訪問する前に質問内容のメモを作っておくと、スムーズにいきます。

敬老の日など、100歳などのお年寄りに「アンケート調査」をするのも一つの方法です。ただ、用紙を配って書いてもらうよりは、聞き取りの方が面白い話が出てくる場合が少なくありません。

書いてもらった場合も、ここをもうちょっと質問したいというところは、直接会って補足取材をしてみましょう。突っ込んだ内容の応答があればあるほど、魅力的な話になるはずですよ。

話を聞いてもらいたくてしょうがない。そんな人は、想像以上にたくさんいます。耳を傾け、うなずきながら聞いていくと、いくらでも話してくれます。あまり言葉をさはさず、聞き上手になることです。

広島文教女子大学 グローバルコミュニケーション学科
教授 岡馬 重充(おかば・しげみつ)

このシリーズは、広報紙づくりの工夫などを知ってもらうとともに、楽しく広報紙を読んでもいただくための視点としてもお役立ていただくよう掲載しています。



いきいき ボランティア

安佐北ミミの会
代表 和田 栄二さん

安佐北ミミの会は、傾聴ボランティアグループです。活動は主に施設で行っています。発足は平成16年に安佐北区社会福祉協議会が開催した傾聴ボランティア講座の受講者でボランティアグループを結成、当時唯一の男性の和田栄二さんが代表となり現在に至っています。

お勤めとボランティア活動を両立されている
和田さんにボランティア活動への思いを伺いました。

ボランティア活動のきっかけは、小さい頃から困っている人を見かけると「手伝いましょう」と気負いもなく言える

子どもだったので、それが今のベースになっています。

47歳のときに交通事故で2年間入院しましたが、寝たきり状態の時に周りのみなさんにたいへんお世話になり、元気になったら社会の役に立ちたいと常に思うようにもなりました。

退院後は、福祉に関わる仕事に転職し、お年寄りとお話をすることが多く、「高齢者の気持ちが知りたい。もっと上手に話を聴きたい」との思いから傾聴ボランティア講座を受講しました。

安佐北ミミ会の主な活動は、高齢者施設や在宅に訪問し、お年寄りの話を聴き、楽しい時間を一緒に過ごす事です。訪問活動を長く続けているとより親しくなり、月に1回の訪問を心待ちにしていただけようになり嬉しく思っています。

今の目標は、話相手を必要とされる方のご希望にそえる活動にする事です。

そのためにはいろいろな地域にまんべんなくボランティアがいれば実現できます。

安佐北ミミの会ではボランティアを募集しています。

みなさん一緒に活動をしませんか。

ボランティア グループ紹介

～いきいきグループ～

「いきいきグループ」は、可部地区内で配食活動を行っています。

平成6年から可部地区社会福祉協議会のふれあい配食の取



り組み実施にあたり、配食活動運営委員会に参加し、月2回、可部地区内の一人住まいの高齢者にお弁当を配る活動を現在まで行っています。(配食活動運営委員会は、可部地

区社会福祉協議会、可部地区民生委員児童委員協議会、緑ヶ丘静養園、いきいきグループで構成しています。役割は、配食先把握は民生委員、緑ヶ丘静養園が献立と調理、いきいきグループが詰め込みと配達を担当)

現在は、ボランティアの高齢化と合わせて配食先も当初の35名から25名に減少し、活動は縮小していますが、毎年可部地区社会福祉協議会から助成を受けながら続けています。

若い世代の人にボランティアに参加いただき、活動が途絶えることなく続くことを願っています。

やさしさ発見プログラム

体験！発見！！ほっとけん！！

安佐北区社会福祉協議会は、「福祉に関わる学習」の講師の紹介をおこなっています。

車椅子体験では、みんなでスクラム作業所の車椅子ユーザーと職員の安留きみさんに講師を依頼し、小学校児童たちと触れあいがらお話をいただいています。

小学校を訪問する際のポイント等を講師のみなさんに伺いました。

Q 子どもたちに何を伝えたいですか。

A 障害のある人を見かけてもどう接していいのかわからない、声もかけづらいと思いますので、困っていることや手助けしてもらえると助かることを伝えたいです。
思いやりの心、優しい心を伝えに行っています。

Q 学校で話をした後で変わった事がありましたか

A スーパーで車椅子を見かけたら振り向いてくれたのが嬉しかったです。
買い物に行っているときに声を掛けてもらいました。
授業の中で、これから町で出会ったときは手伝ってくれると言ってくれたことが嬉しかったです。

福祉学習の全体をすすめている 安留きみさんから

最初、安佐北区社会福祉協議会から車椅子体験の話をいただいたときは、小学生は珍しい乗り物体験感覚が先にくるのではと思い、正直どうかと思いました。

しかし小学校からの体験感



想文を読むと、小さいときの方が素直な意見を持ってきて、一つでもいいから覚えていてもらえればいいと思うようになりました。

元気な人も障害のある人も人として大切な命。みんなで助け合っていける世の中になって欲しいです。これからも依頼があれば、小さな助け合い、小さなやさしさを伝えに行きたいと思っています。

似顔絵がつなぐ みんなの笑顔

軽ワゴンで似顔絵を描きながら日本一周の旅をしている、西沢小百合さん(30歳)が平成25年2月27日に安佐北区に立ち寄られ、話を伺うことができました。

西沢さんは、保育士の仕事を辞し、全国の多く

の人たちとの出会いと笑顔求めて、平成24年5月13日石川県羽咋(はくい)郡を出発。出会った方たちに似顔絵をプレゼントしながら、みんなを元気にする旅を続けています。

東日本大震災の被災地では、約1ヶ月間滞在。一人住まいのおばあちゃんの家数日間寝泊りさせてもらうなかで、「まわりの人たちはいろいろ助けてくれる。しかし、あなたにご飯を作ってもらって本当に良かった。私にもやる事があって…」と聞くこともあったようです。

旅でいろいろな方たちに出会うなか、方法等は違ってもみんなの思いは「みんな仲良くなりたい」と共通しているが、それぞれがいろいろしながらみや固定観念にとらわれている現実にも気づかされたようです。

西沢さんは、「大きなことはできないけれど、似顔絵を通してみんなに何かのきっかけを与えることができる人間になりたい」とも語っておられました。

旅を通して描く似顔絵は1万人が目標。安佐北区ですでに7000人を超えていました。今年の6月には旅を終え、故郷へ戻られる予定です。



弁護士無料法律相談のお知らせ

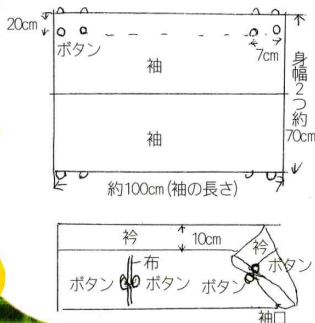
内 容:多重債務、破産、離婚などについて弁護士による無料相談
相談日時:5月15日(水)13:00~16:00
相 談 料:無料(定員6名)
相談時間:ひとり30分
場 所:安佐北区総合福祉センター(可部3-19-22)
申 込:4月15日(月)から電話またはFAXにて受付
(原則、安佐北区内に居住する方を優先)
申 込 先:安佐北区社会福祉協議会
(電話814-0811 FAX814-1895)

介護の味方シリーズ

5

着物の袖2枚を縫い合わせ、ボタンを付けるだけでポレロになります。簡単に着せてあげる事ができますし、ひざ掛けやストールとして使うこともできますよ。

- ① 着物の袖2枚をほどいて縫い合わせ、裏地を付けます。
- ② 縫い合わせた生地の上下4か所に2つずつ紐(ループ)を取りつけます。
- ③ 生地の上側を20cm程度折り返した先に、ボタンを表裏に付けます。
- ④ 上側の紐(ループ)を表側のボタンに、下側の紐(ループ)を裏側のボタンにそれぞれ引っかけると、衿と袖口となります。



<情報提供>
可部ほけっと 篠原さんより
(参考資料:雑誌いきいき)

あんしん電話で あんしん

ひとり暮らしの病弱な高齢者や重度身体障害者などが、自宅で急病や事故などの緊急時に安全を確保する事業です。

胸にかけたペンダント型の発信機や通報装置のボタンを押すと、電話相談センター(周南マリコム(株)が受託)へ連絡が入り、状況確認の上、消防局への通報や、近隣の協力員、親族、関係機関へ連絡し、安全の確保につなげています。

【サービス内容】

- 1:緊急通報の受診
- 2:緊急通報時における利用者への励まし
- 3:相談業務
- 4:定期的な声かけ

詳細については下記へお問い合わせください

高齢者は 区健康長寿課 電話 819-0585 FAX 819-0602

重度身体障害者は 区保健福祉課 電話 819-0608 FAX 819-0602

かけはし

をご利用ください。

<福祉サービス利用援助事業>

認知症や障害のために、地域での生活がしづらくなつた方々が、安心して生活できるよう支援します。

例えば、こんなことでお困りの方ご相談ください。

- ・役所から手紙がきたが、内容が良くわからん。
- ・通帳が、よくわからんようになる。
- ・お金の支払いが、ようわからんようになる。



この制度は、こんなことでお困りの方と、契約を結び、今のお住まいの所で安心して生活が出来るよう、専門の職員が訪問してお手伝いします。

また、このほか成年後見や、権利擁護に関する相談もお受けします。安佐北区社会福祉協議会までお問い合わせください。

■多重債務を解決したい方へ

クレジットや消費者金融の返済のために家計が成り立たなくなったり、返済が滞ったりしていませんか。このような状態になり、債務の整理を行って生活の立て直しを考えている方は、公益財団法人日本クレジットカウンセリング協会までご相談ください。

同協会は、消費者保護の立場から、公正・中立なカウンセリングを通して、生活再建の支援を行うことを主な目的としている公益法人です。返済が困難になったり、解決方法がわからない時や迷っているときは、下記までご連絡ください。

連絡先:公益財団法人 日本クレジットカウンセリング協会
広島センター

住 所:〒730-0017

広島市中区鉄砲町5番16号 広島サンケイビル2階

電話番号:082-511-8011

食べものを大切に

安佐北区社協は、今日明日の食べ物に困っている方(家庭)に、フードバンク広島と連携し、緊急一時的な食品提供をしています。昨年は、この取組みに賛同いただいた白木町井原・戸石集落営農組合の皆さまから、玄米150kgが寄せられました。

なお、フードバンク広島(NPO法人あいあいねっと・可部3-9-22 ☎819-3023)では、余剰食品を再度よみがえらせ社会に役立たせる橋渡しを行っており、食品製造・販売企業をはじめ皆さまからの寄託を呼びかけています。



ご協力ありがとうございました

平成24年度 共同募金安佐北区分会実績額



募金額 / 12,903,168円 (平成25年3月11日現在)

内訳/戸別:10,810,636円 街頭:201,840円 職域:368,192円
法人:1,433,500円 その他:その他:89,000円

赤い羽根共同募金は、高齢者、障がい者、子どもたちなどへの、地域の福祉活動を支援する募金です。災害時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など、被災地支援にも役立っています。

東日本大震災義援金



東日本大震災義援金の受付は、平成26年3月31日まで延長しています。

★編集後記★
次号(90号)は7月下旬発行予定です。
「ほのぼの川柳」のご投稿、広報紙のご意見・ご感想をお待ちしております。
(編集者)

〈指定寄附〉
三人の庄郷土を愛する会様
※貸出用車いす購入資金として

〈一般寄附〉
山下 武志様
勝圓寺佛教婦人会様
匿名希望4名様



〈香典返し寄附〉
高山 桂子様
〈一般寄附〉
安佐北区社協に、みなさまより多額のご寄付をいただきました。
みなさまのご厚意に感謝申しあげ、ご報告いたします。
(平成24年10月~平成25年3月)
〈香典返し寄附〉

愛の灯

【出典】シルバー川柳 株式会社ホブラ社発行

指一本 スマホとオレを つかう妻

女子会と 言って出掛ける デイケア

ほのぼの川柳